

価格.comリサーチ 『2014年・冬のボーナス』に関する調査結果

冬のボーナス推定平均支給額は「58.5万円」、前年比1.4万円（2.5%）増
 「自由に使える金額」微増も、商品・サービス購入意向は-6.5ポイントと大きく減退
 金額ベースの使い道上位は、「貯金」、「ローン返済」、「新規ローン」
 消費者の購買意欲停滞で、冬のボーナス商戦は苦戦が予想される

URL : <http://kakaku.com/research/report/081/>

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト『価格.com（カカドットコム） : <http://kakaku.com/>』が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第81回「冬のボーナス2014-増えた？減った？気になるみんなのボーナス事情-」の調査結果を一部抜粋の上、ご案内します。

【結果ダイジェスト】

- **推定平均支給額** : 58.5万円（前年比2.5%増）。昨冬、今夏に続き3期連続の増加。40代が増加（3.5%）する一方、30代、50代以上は前年比マイナスに
- **業種・企業規模別** : 「金融業」「公益法人・財団法人」「ソフトウェア・情報サービス業」が大きく伸び、「サービス業」が大きくダウン。アベノミクスの恩恵に差異？
- **自由に使える金額** : ボーナス支給額の比較的多い人たちで増加。若年層中心に自由に使える金額は増加傾向で、満足度もわずかに向上
- **使い道** : 「商品・サービスの購入」は、6.5ポイントの大幅減と冬のボーナス商戦に暗い影。一方で、金融商品の新規購入意向が増加
- **購入予定の商品** : 全体的に例年同様「洋服・ファッション関連」（18.1%）がトップも、全体的には消費者の購入意欲は停滞気味。家電製品では、「調理家電」「薄型テレビ」「エアコン」などが比較的堅調か

● **推定平均支給額** : 58.5万円（前年比2.5%増）。アベノミクス効果か、昨冬、今夏に続き3期連続の増加。40代が増加（3.5%）する一方、30代、50代以上は前年比マイナスに

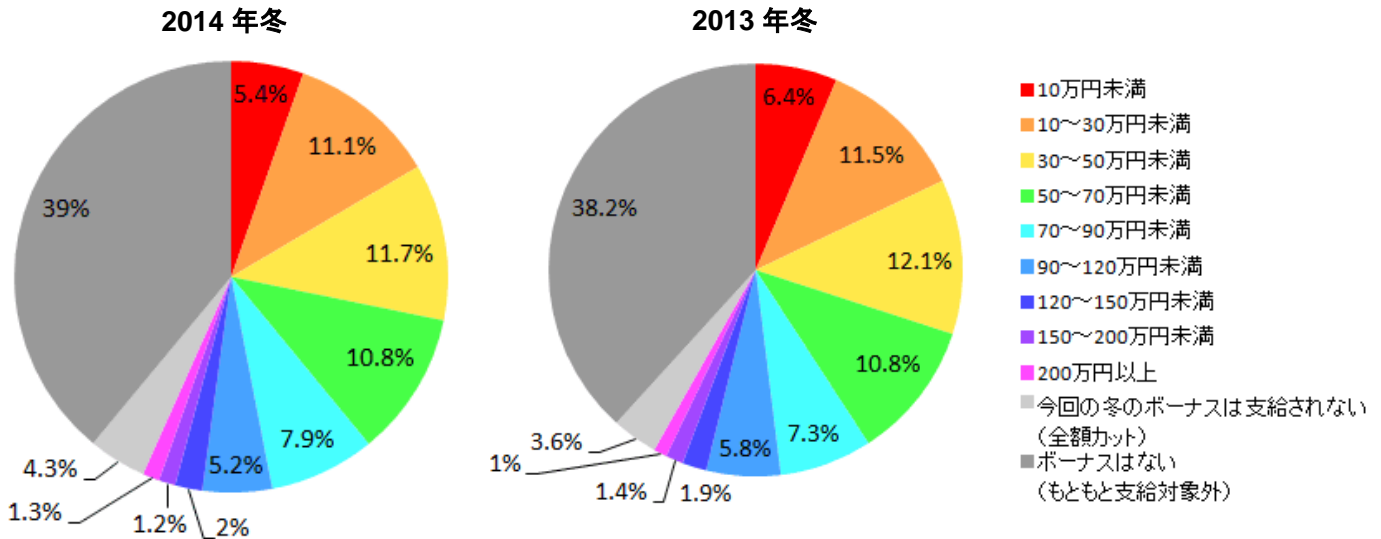
2014年冬のボーナス推定支給額は、全体平均で58.5万円となり、昨年よりも1.4万円（2.5%）のプラスとなった。昨年調査時は3.8%の増加であり、今年の夏のボーナスも2.6%の増加だったので、価格.comリサーチのボーナス調査としては、3期連続の増加ということになる。いわゆる「アベノミクス」の影響がじわじわと浸透している結果と言えるかもしれない。

年代別では、もっとも回答者が多い、働き盛りの40代が前年比で3.5%増加したのが全体の数値を押し上げる結果となっているが、逆に、30代、50代、60歳以上では前年比マイナスになっている。

【図 1. ボーナス推定平均支給額 性別・年代・家族構成別（税込金額）】

		2014冬(万円)	2013冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		58.5	57.1	1.4	2.5%
性別	男性	59.7	58.1	1.6	2.8%
	女性	39.3	43.4	-4.1	-9.3%
年代別	20代	37.1	35.5	1.6	4.6%
	30代	45.3	45.9	-0.6	-1.3%
	40代	58.8	56.8	2.0	3.5%
	50代	67.6	68.2	-0.6	-0.8%
	60歳以上	44.2	46.1	-2.0	-4.3%
家族構成別	単身	49.9	45.7	4.2	9.1%
	夫婦のみ	58.5	55.8	2.7	4.8%
	夫婦と子供	63.4	63.0	0.4	0.6%
	3世代同居	61.8	58.7	3.1	5.3%

【図 2. 冬のボーナス推定平均支給額（全体）】



●業種別・企業規模別：「金融業」「公益法人・財団法人」「ソフトウェア・情報サービス業」が大きく伸び、「サービス業」が大きくダウン。企業規模を問わず、アベノミクスの恩恵を受けた人、受けない人の差が表れる結果に

業種別では、「医療業」と「サービス業」が前年比マイナスとなり、特に「サービス業」では、前年比-10.8%という大幅な下げとなっている。大きく上げたのは、「金融業」と「公益法人・財団法人」、「ソフトウェア・情報サービス業」であるが、アベノミクス効果で期待される「製造業」については、3.8%の微増にとどまった。

企業規模別でも、500～5000人未満の大企業については、前年比マイナスとなっており、大企業といえども一概に好景気とはいえない状況が伝わってくる。ここまでのところでは、アベノミクスの恩恵を受けた人、受けない人の差は、まだかなり大きいようだ。

【図 3. ボーナス推定平均支給額 業種別（税込金額）】

		2014冬(万円)	2013冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		58.5	57.1	1.4	2.5%
業種別	金融業	94.7	84.3	10.4	12.3%
	国家・地方公務員	68.0	64.9	3.1	4.8%
	製造業	63.8	61.5	2.3	3.8%
	公益法人・財団法人	65.4	56.2	9.2	16.4%
	ソフトウェア・情報サービス業	54.6	48.7	5.9	12.2%
	医療業	53.2	54.7	-1.5	-2.8%
	卸売・小売業	47.2	47.2	0.0	0.1%
	サービス業	40.2	45.1	-4.9	-10.8%

【図 4. ボーナス推定平均支給額 企業規模別（税込金額）】

		2014冬(万円)	2013冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		58.5	57.1	1.4	2.5%
勤務先 規模別	50人未満	37.6	35.1	2.4	6.9%
	100人未満	42.4	43.7	-1.2	-2.8%
	300人未満	50.4	48.3	2.0	4.2%
	500人未満	59.1	52.5	6.6	12.6%
	1000人未満	59.4	60.8	-1.4	-2.4%
	5000人未満	73.6	74.9	-1.3	-1.7%
	5000人以上	89.1	85.3	3.8	4.4%

●自由に使える金額：「30～50万円未満」9.9%（前年比1.5ポイント増）、「50～100万円未満」6.6%（1.4ポイント増）と、ボーナス支給額の比較的多い人たちの金額が増加。若年層中心に自由に使える金額は増加傾向で、満足度もわずかに向上

支給される予定のボーナスのうち、必要経費として引かれる、ローン返済、生活費補填、ボーナス一括払いなどの費用を除いた、自由に使える金額を聞いたところ、もっとも多かった金額レンジは、「5～10万円未満」で全体の20%。次いで「10～20万円未満」（12.7%）と、「3～5万円未満」（12.6%）と続く。これは昨年の傾向とほぼ変わらない。むしろ増加しているのは、それよりも上の金額レンジである。「30～50万円未満」の合計では、昨年の8.4%から1.5ポイント増加した9.9%になっており、「50～100万円未満」の合計も、昨年の5.2%から1.4ポイント増加した6.6%になっている。割合自体は少ないが、ボーナス支給額が比較的多い人の中では、自由に使える金額も若干増えているようだ。

また、自由に使える金額の増減を聞いたところ、「増えている」「やや増えている」の合計は11.2%で、昨年の10.2%から1.0ポイント上昇した。また、「減っている」「やや減っている」の合計は35.8%で、昨年の39.0%から3.2ポイントほど減少している。全体的に、ボーナスのうち自由に使える金額はわずかながら増加しつつあることがわかる。

さらに世代別では、「増えている」としたのは若年層ほど多く、「減っている」としたのは高齢層ほど多い。傾向としては例年通りだが、昨年と比べると、60歳以上の世代を除いては、「増えている」が全体的に増加、「減っている」が全体的に減少している。

自由に使える金額に対する満足度についても、昨年と比べて「非常に満足」「やや満足」とともにやや増加し、「非常に不満」「やや不満」はいずれもやや減少している。満足度は若干ではあるが上がっている様子が見て取れる。

◆自由に使える金額について：<http://kakaku.com/research/report/081/p02.html#graph2>

●**使い道と平均消費金額：「商品・サービスの購入」6.5ポイントの大幅減と冬のボーナス商戦に暗い影。一方で、金融商品の新規購入意向が増加**

この冬支給予定のボーナスの大まかな使い道を聞いた。なお、今回の調査から新たに「引越し」と「新しくローンを組む」という項目を付け加えている。

まず、割合ごとに見ていくと、いつものながら「貯金」が68.3%ともっとも多く、次いで「商品・サービスの購入」(64.5%)となっている。ただし、昨年結果と比べると、「貯金」の割合は2.5ポイント減少し、「商品・サービスの購入」の割合は6.5ポイント減少するなど、いずれも割合自体は減っている。特に「商品・サービスの購入」の落ち込みが激しく、この冬のボーナス商戦の盛り上がりにも暗い影を落としている。

金額ベースでは、もっとも多かったのは、新項目の「新しくローンを組む」で207,273円となった。ローンにもさまざまあるが、その大半は、住宅や車など比較的高額な商品を購入するための頭金としての利用だ。消費税の税率アップ問題が話題となっているが、それを見越して、高額な商品を今購入しておこうという消費者マインドが現れた結果かもしれない。その他、金額ベースで多いのは、「貯金」の204,258円や、「既存ローンの返済」の191,173円、「金融商品の購入など」の176,545円、「旅行・外出をする(海外)」の165,946円など。いずれの項目も、昨年調査よりも金額が増加傾向にあり、特に「金融商品の購入など」は昨年の149,957円よりも26,588円も増加している。上の設問で見たように、ボーナスのうち自由に使える金額が若干増えたことで、株式や外貨預金などの金融商品に投資する額が増えているとも言えそうだ。

なお、冬のボーナス商戦に影響を与える「商品・サービスの購入」については、金額ベースで71,625円と、昨年の73,872円から比べても微減している。自由に使える金額は増加しても、一般商材の買い物にかかるお金はなかなか増えていないという現状が垣間見える結果だ。

【図 5. ボーナス平均消費金額（複数回答可）】

ボーナスの消費目的	この目的にお金を使う人の平均消費金額(円)	この目的にお金を使う人の割合(%)
貯金	204,258円	68.3%
商品・サービスを購入する	71,625円	64.5%
既存ローンの返済	191,173円	35.9%
旅行・外出をする(国内)	60,484円	33.4%
子供の教育費	142,367円	30.0%
金融商品(投資信託、株式等)の購入・外貨預金など	176,545円	10.4%
旅行・外出をする(海外)	165,946円	7.0%
金融商品(投資信託、株式等)の補填	129,455円	6.4%
引越し(※新項目)	123,393円	3.6%
新しくローンを組む(※新項目)	207,273円	2.8%
その他	104,041円	28.5%

※平均消費金額は、「お金を使う予定はない」と答えた回答者数を除いて算出しています。

【図 6. ボーナス平均消費金額 昨年度との比較（複数回答可）】

ボーナス消費目的	調査時期	この目的にお金を使う人の平均消費金額(円)	この目的にお金を使う人の割合(%)
ローン返済	2014年冬	191,173円	35.9%
	2013年冬	187,562円	43.3%
貯金	2014年冬	204,258円	68.3%
	2013年冬	184,706円	70.8%
旅行・外出をする(海外)	2014年冬	165,946円	7.0%
	2013年冬	156,949円	7.7%
金融商品(投資信託、株式等)の購入・外貨預金など	2014年冬	176,545円	10.4%
	2013年冬	149,957円	10.3%
子供の教育費	2014年冬	142,367円	30.0%
	2013年冬	131,229円	31.0%
金融商品(投資信託、株式等)の補填	2014年冬	129,455円	6.4%
	2013年冬	85,507円	6.5%
商品・サービスを購入する	2014年冬	71,625円	64.5%
	2013年冬	73,872円	71.0%
旅行・外出をする(国内)	2014年冬	60,484円	33.4%
	2013年冬	59,401円	36.0%
その他	2014年冬	104,041円	28.5%
	2013年冬	98,874円	34.1%

※今回調査で新しく追加した「新しくローンを組む」「引越し」の項目は省いています。

●購入予定商品：例年同様「洋服・ファッション関連」(18.1%)がトップも、全体的には消費者の購入意欲は停滞気味。家電製品では、「調理家電」「薄型テレビ」「エアコン」などが比較的堅調か

例年通りトップは「洋服・ファッション関連」で18.1%。こちらは昨年の15.6%から2.5ポイント増加しており、相変わらずの強さを見せた。しかしながら、この項目を除くと、ほかの項目はすべて10%未満の数字となっており、突出して人気の商品ジャンルがないという結果が見て取れる。こうした、「特に買いたいものがない」という消費者マインドは、これから訪れる冬のボーナス商戦に大きな影響を与えそうだ。

そんな全体的に冷え込んでいる消費者の購買意欲の中でも、比較的購入の意欲が上がっているのは、「本・雑誌・漫画」(9.9%・3.3ポイント↑)、「調理家電」(6.2%・0.7ポイント↑)、「薄型テレビ」(5.9%・1.0ポイント↑)、「時計・アクセサリー・ブランド品」(5.4%・0.5ポイント↑)、「オーディオ機器・ホームシアターセット」(3.5%・0.9ポイント↑)、「エアコン」(3.4%・1.2ポイント↑)など。家電製品関係では、ここ数年人気が高まってきている「調理家電」と、4Kテレビがだいぶ購入しやすくなってきた「薄型テレビ」、電気料金の値上げなどから買い換え需要が高まりつつある「エアコン」などが、比較的堅調な動きとなりそうだ。逆に、これまで比較的高い人気を保ってきた「タブレット端末」は7.6%で、昨年比で3.2ポイントのマイナス、昨年はWindows XPからの買い換え需要で比較的好調だった「ノートパソコン」も7.2%で、昨年比0.9ポイントのマイナスとなった。昨年は好調だったパソコン関連製品だが、今年のボーナス商戦では厳しい戦いを強いられそうだ。

◆冬のボーナスで購入予定の商品（ボーナス支給者全体）：<http://kakaku.com/research/report/081/p04.html#graph8-1>

総評： 鎌田剛 カカクコム メディアクリエイティブ部 部長

「アベノミクス」によって日本経済はふたたび上昇傾向に戻ったと言われるが、その実施から約2年が経過した今、一般生活者のボーナスはどのように変化したのだろうか。

今年の冬のボーナス予想支給額の全体平均は58.5万円となり、昨年より1.4万円(2.5%)のプラスとなった。これで、2013年冬、2014年夏、2014年冬の3期連続でのプラスとなったわけで、わずかずつではあるが、景気が上向きに動いていることが実感できる結果となった。

ただし、そのいっぽうで、ボーナス支給額がプラスになっている人と、マイナスになっている人の差が、より激しくなってきたのも事実。年代別では、働き盛りの40代と20代はプラスだが、そのほかの年代ではむしろマイナスとなっており、業種別でも、医療系とサービス業ではマイナスとなっている。特に、サービス業のボーナス予想支給額の落ち込みは、前年比-10.8%という大幅な下げとなっており、業種間の格差は広まっている印象を受ける。

しかしながら、支給されるボーナスのうち、自由に使える金額は昨年よりも全体的に上がっており、昨年よりはやや豊かさを実感している人も少なくはないようだ。その増えた分のお金が消費に回れば、景気もさらに上向きそうなものだが、若干増えた分のお金は、主に株式などの金融商品として投資に回されたり、来たるべき消費税率の再アップに向けて今から住宅や自動車などの高額商品を購入しておこうという用途に回される傾向が強く、一般の消費財や家電製品などの耐久消費財にはなかなか回されないというのが現実のようだ。実際、この冬のボーナスのうち、商品やサービスの購入に回される金額は、わずか71,625円で、これは昨年の調査結果を下回っている。

ただ、これは、消費者にお金がないというわけではなく、むしろ「買いたいものがない」というマインドの現れともいえる。購入したい製品ジャンルでは、全体の10%を超えるものはほとんどなく、この冬のボーナス商戦もかなり厳しいものになることが予想される。わずかに、調理家電や4Kなどの液晶テレビ、エアコンなどが前年よりも上向きだが、昨年まで比較的好調だったタブレット端末やノートパソコンなどのパソコン関連製品は人気はかなり落ちてきており、ボーナス商戦はかなり苦戦することだろう。

アベノミクスによってボーナスの支給額自体はわずかに増えつつあるが、消費者の購買意欲を刺激するには、魅力的な商品開発が欠かせない。自動車などのジャンルでは、一部で魅力的な商品が開発されており、比較的好調に見えるが、パソコン・家電業界においては、かなり手詰まり感があり、魅力的な新商品がなかなか現れないのが現状といえる。「買えない」のではなく「欲しいものがない」というのが、今の一般消費者の偽らざる気持ちではないだろうか。

※詳細結果、総評全文および過去のリサーチアーカイブは以下 URL をご参照ください

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【調査パネル】

調査エリア：全国 調査対象：価格.comID 登録ユーザー

調査方法：価格.com サイトでの Web アンケート調査 回答者数：3,235人

男女比率：男 92.6%：女 7.4%

調査期間：2014年11月7日～2013年11月13日

調査実施機関：株式会社カカクコム

※四捨五入による端数処理のため、合計が100%にならないことがあります。

【価格.com サイトデータ】（2014 年 9 月末現在）

月間利用者数 4,672 万人、月間ページビュー 8 億 7,016 万 PV、累計クチコミ件数約 1,740 万件
＜利用者内訳＞ PC : 2,774 万人 スマートフォン : 1,852 万人 フィーチャーフォン : 46 万人

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカクコム 広報室 e-mail: pr@kakaku.com

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com リサーチ」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…